

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立海青中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な生徒会活動が活発になったことや、全職員が共通理解し、組織的な生徒指導の実践、開発的な生徒指導を行ったことで、問題行動は減少したが、生徒間トラブル、不登校生徒への対応等、課題は多い。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策による行事等の削減により、昨年度は小中連携としての研修が不十分であった。そのため、9年間をスパンとした学力向上に向けての具体的取組が充分だったとは言い難い。また、人権教育についても小中連携、家庭や地域と連携した取組にさらに力を入れる必要があると考える。
2 学校教育目標	「感謝の心を持ち、自主・自立に向かう生徒の育成」～みんなが楽しい学校に～
3 本年度の重点目標	(1)授業改善を図り、自ら学ぶ生徒の育成 (2)自分から挨拶ができる生徒の育成 (3)安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 (4)ボランティア精神にあふれた生徒の育成 (5)部活動の活性化

4 重点取組内容・成果指標

(1)共通評価項目			中間評価	5 最終評価			主な担当者
重点取組			中間評価		最終評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	B	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	●タブレット端末を活用した授業実践の推進に個人差があった。来年度は、今年度以上に有効な活用ができるよう研修等を実施していく。	●教務主任 ●学力向上対策コーディネーター ●教育情報推進リーダー
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を70%以上にする。	A	●定期的なGWTやエンカウンター、アサーションを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ●生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ●ボランティア活動を活性化させる。	A	●学校行事、生徒会活動、係活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合は、最終的に91.5%であった。年間を通して、9割以上の生徒が、意欲的に行事や活動に取り組むことができた。	●研究主任 ●道徳教育推進教師 ●人権・同和教育担当者 ●各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと答える生徒の割合を80%以上にする。	A	●年2回のhyper-QUの実施の分析・考察を行う。 ●いじめアンケートや心の健康アンケート、日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。	A	●学校が楽しいと答える生徒の割合は、最終評価の段階では、87.3%であった。年間を通して、担任を中心として、学年集団で生徒に寄り添った支援ができていた。	
	◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の推進	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をする生徒を70%以上にする。	B	●全ての教科や学校行事を通してキャリア教育を充実させ、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。	A	●「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒の割合は、約80%となっている。今後さらにキャリア教育を充実させていく必要がある。	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	A	●「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを多くの場面で意識させ、自己の健康管理に活かせるようにする。	A	●「健康のために食事は大切である」と答えた生徒は、98.5%となっている。今後、家庭と連携し、食育の充実を図り、100%を目指していく。	●食育担当教員 ●家庭科担当教員 ●養護教諭
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	D	●毎週水曜日の定時退勤日の設定。 ●週二日の部活動休養日の設定。 ●学校閉庁日(8/13～8/15)の設定。	B	●定時退勤日の設定をしているが、徹底するには至っていない。月45時間以上の時間外勤務をしている職員が多い現状があるため、改善が必要である。	●管理職
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	
○生徒指導・教育相談の確立	○生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ○個に応じた支援の推進	○自分のことが好きだと答える生徒の割合を70%以上にする。 ○学校教育目標を意識し、「みんなが楽しい」と答える生徒の割合を75%以上にする。	C	●生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ●「みんなが楽しい」ということを生徒に問いながら、全職員で、生徒同士、生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。	B	●みんなが楽しい学校にするために、生徒会が中心となって活動や呼びかけを行うことができた。職員は生徒に寄り添いながら生徒の主体的な活動を支えることができていた。	
○保護者・地域に信頼される学校づくり	○学校安全管理に基づく危機管理体制の整備 ○学校公開と情報提供の推進	○災害発生時に対応できる実践的な避難訓練を定期的に行う。 ○学校教育目標の周知率を90%以上にする。 ○携帯掲示板のアクセス数を100以上にする。	B	●原子力防災、火災、地震、不審者対応等の避難訓練の実施。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえながら、保護者や地域の方々が参加しやすい学校行事を工夫する。 ●適時、携帯掲示板を活用し、情報を発信する。	A	●行事については、保護者の要望を取り入れながら実施することができた。今後、卒業式についても、新型コロナウイルス感染拡大防止対策をとりながら、できるだけ保護者の要望に応える形で実施する方向である。	
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)					●管理職 ●安全教育担当教員 ●情報教育担当教員

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	全職員が、生徒に寄り添いながら生徒の主体的な活動を支えているため、「学校行事等に積極的に取り組んでいる生徒」「学校が楽しいと答えた生徒」が約9割と大変高くなっており、全体的に落ち着いて教育活動に取り組んでいる。そのため、問題行動等も前年度に比べ減少している。また、生徒会が中心となり、「みんなが楽しい学校」をつくるために自主的な活動に取り組んでいるため、生徒会活動が活性化している。 ・学力向上や不登校生徒への対応、人権意識の向上など、課題もあるため、現状を把握し改善に向けての取り組みを進めていく必要がある。
----------------	--